

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	クラシエ製薬株式会社 高槻第二工場	階数	地上2F
建設地	高槻市萩之庄3丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	30人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2019年3月21日
敷地面積	12,540 m ²	作成者	皆川和朗
建築面積	2,455 m ²	確認日	2019年3月21日
延床面積	3,465 m ²	確認者	河野充博



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	高槻市に新築される製薬会社の工場事務所の計画である。環境負荷低減へ配慮した生葉棟を目指し、デシカント式除湿機やCO ₂ センサー発停による全熱交換機を採用する事で、エネルギーロスを抑制した生葉棟となるように取り組んだ。	その他 特になし。
Q1 室内環境	屋根及び1階スラブ下には断熱材を採用し熱的環境に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 製薬工場の特性上、防虫の観点から植栽計画には制限を受けるが、交通量や人の往来が多い南側の国道側に向けて、生垣上の植栽や、正面ゲート前にポケット状の植栽帯を設け、地域に向けて緑と親しむ環境を整えた。
LR1 エネルギー	全館LED照明を採用するなど高効率設備の導入により省エネ性能に配慮した。	LR3 敷地外環境 十分な駐車場と駐輪場・バイク置場の整備と正面ゲートの拡幅により周辺への交通負荷抑制に配慮した。
Q2 サービス性能	各階ともゆとりある階高・天井高さとし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。また、生葉棟2階の天井裏にはキャットウォークを設け、天井裏から各種設備機器をメンテナンス・清掃・更新をしやすいように配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	節水機器を採用し水資源保護に努めた。断熱材はノンフロンとしており環境にも配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0005

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	クラシエ製薬株式会社 高槻第二工場 建物再構築事業 生薬棟					
		建設地	高槻市萩之庄3丁目					
		用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3		
②	みどり・ヒート アイランド対策					3		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					2		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.2	3	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.4	2	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								